

# 六本の弦が奏でる至福の調べ。

ジム・ホールが敬愛する日本人ギタリスト、初リーダーアルバム

74歳、日本ジャズ界の至宝。語り継がれたそのプレイが、ここに永遠に刻み込まれた。

ポンちゃんは私の最も古い日本の友人の一人。

初リーダーアルバムが届いたとは嬉しい限りだ。

長らく、これほど美しいギターサウンドは聴いたことがない。

～ジム・ホール(2004年アメリカン・ジャズ・マスター賞を受けた世界最高峰ギタリスト)



ポン先生の美しい音色と  
優しい人柄はまさに生きる国宝です。

—加古隆(作曲家・ピアニスト)

TO PONCHAN SAN  
WITH LOVE AND RESPECT  
Jim Hall

音楽には生きざまが出るという。

このアルバムからは、静かな海の匂いがする。

激しい熱情を抑えこんだ静かな海。

沖縄以外にもこんな方がおられた事に安心した。

まだ、音楽は生き延びている。

—中江裕司(映画「ナビィの恋」「ホテル・ハイビスカス」監督)

love and respect yasunori "pon-chan" suzuki

ラヴ・アンド・リスペクト／鈴木“ポンちゃん”康允

音楽を聴く人も、演奏する人も音楽のルーツを知って欲しい。

この1枚にそれがあります。本物を聴かずして本物を語るなかれ。

—亀渕友香(ヴォーカリスト、The Voices of Japan主催)

Now On Sale

音楽は人間であるとあらためて思う。

—青木和富(音楽評論家)

ギターの音色の素晴らしさ、美しいスタンダード・ソングとその見事な解釈。

メロディーいっぱいのアドリブ・ソロ、しなやかなスイング。

そして、目の前で演奏しているような臨場感溢れるリアルな録音。

なかでも「IT'S SO GOOD TO SEE YOU!」が私のフェイバリットです。

—井上智(NY在住ジャズ・ギタリスト)

僕にもこんなに深みのあるギターが弾ける日が来るのでしょうか。

IT'S SO GOOD TO SEE YOU!です。

—長田進(Dr.StrangeLoveギタリスト)



yasunori "pon-chan" suzuki

love and respect

ACS Records

<http://www.anmusic.co.jp/acs/> ACSJ-60001 全7曲入りCDフル・アルバム¥3,150(税込)

発売元:株安・インターナショナル ACSレコーズ事業部 Tel.03-5214-1318 Fax.03-5214-1314

# love and respect yasunori "pon-chan" suzuki

## ラヴ・アンド・リスペクト／鈴木“ポンちゃん”康允



ASCJ-60001

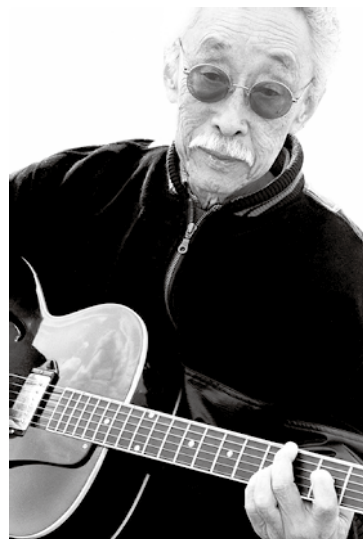
鈴木“ポンちゃん”康允  
YASUNORI “Pon-chan” SUZUKI, guitar  
斉藤“クジラ”誠  
MAKOTO “Kujira” SAITO, bass  
池長 一美  
KAZUMI IKENAGA, drums

全7曲入りCDフル・アルバム ¥3,150(税込)  
2003年9月4,5日 Studio 音楽工房にて録音

1. beautiful love 7:16  
victor young / wayne king / egbert van alstyne / haven gillespie
2. i fall in love too easily 6:20  
jule styne / sammy cahn
3. how insensitive 5:51  
antonio carlos jobim / vinicius de Moraes
4. prelude to a kiss 4:39  
duke ellington / irving gordon / irving mills
5. body and soul 7:29  
john green / edward heyman / robert sour / frank eyton
6. i hear a rhapsody 3:45  
george fragos / jack baker / dick gasparre
7. it's so good to see you ! 7:07  
yasunori "pon-chan" suzuki  
“i hear a rhapsody” is an unaccompanied guitar solo.

### 鈴木“ポンちゃん”康允 yasunori "pon-chan" suzuki

1929年(昭和4年)、東京・高輪生まれ。明治学院の旧制中学4年生(今でいう高校1年生)からハワイアン・バンドでキャリアをスタート。ほどなくジャズに傾倒し、桜井センリ(p)をはじめ、日本のジャズ界の草分けと多数共演、頭角を現す。28歳の時に加入したフランキー堺とシティ・スリッカーズは音楽性のズレから脱退、後任に植木等が加入し、ハナ肇のキューバン・キャッツと合流し、ハナ肇とクレイジー・キャッツとなった。以降、リーダー・トリオを中心にライブ・シーンで活躍。60年代後半からジム・ホール(g)、ヘレン・メリル(vo)ほか、海外アーティストとの親交を深める。1970年、東京でのライブ活動を突然休止し、茨城県ひたちなか市へと移り住むが、以降は音楽学校講師として後進の育成に努める。また、地元中心にライブ活動は継続しており、噂が噂を呼び、都内で活動するミュージシャンが共演しようとひたちなかへ水戸へ押し寄せるという異例の現象を起こした。2004年初リーダー・アルバム「LOVE AND RESPECT」をリリース。



ACS Records

<http://www.anmusic.co.jp/acs/>

発売元:株アン・インターナショナル ACSレコーズ事業部 Tel.03-5214-1318 Fax.03-5214-1314